

令和3年度  
推薦入試・小論文検査

問題用紙  
(50分／600字)

- 開始の合図があるまで、問題用紙の中を見てはいけません。
- 問題用紙、解答用紙に受験番号、氏名を記入してください。
- 解答用紙は、横書きで使用してください。
- 試験中に印刷の不鮮明な箇所等があった場合は、手を上げて試験監督に知らせてください。
- 試験終了後、解答用紙と一緒に問題用紙も回収します。

受験番号	氏名

【問題】 日本の食品ロスの量は、年間600万トンを超えています。食料の多くを海外からの輸入に依存しているのに、その多くを捨てている現実があります。

次の資料1は、「食品ロスをめぐる現状、発生要因」について、資料2は、「食品ロスを減らすための具体的な取組み例」です。

そこで、あなたが国のトップリーダーとして国民に、まず、資料1を用いて「我が国の食品ロスの現状」を伝え、さらに、資料2を参考にして、「食品ロス削減」に向けたあなたが考える具体的な取組みについて、600字以内で述べなさい。



## 【資料1】

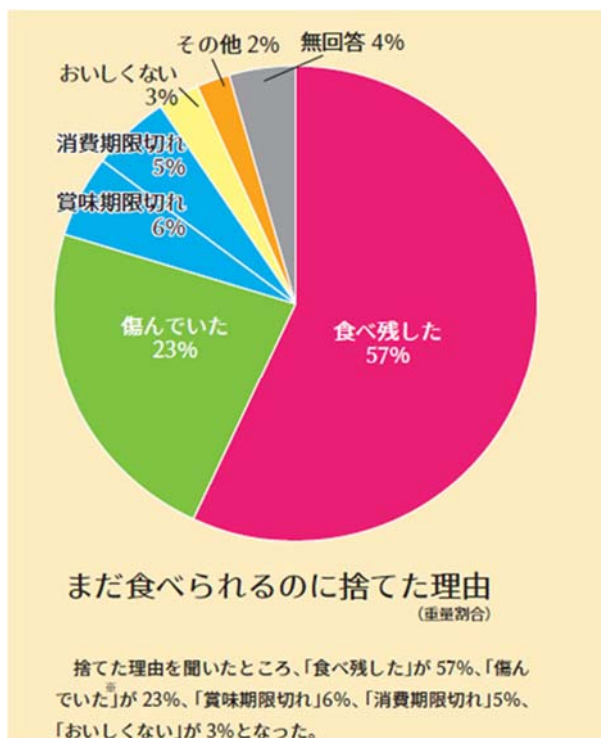
- ・「食品ロス」とは、本来食べられるのに捨てられている食品のことです。
- ・日本の年間の食品ロス量は、年間612万トンで、この量は、次の量に相当します。
  - =毎日大型（10トン）トラック、約1680台分
  - =年間1人当たり48kg（毎日1人がご飯を1杯分捨てていることになる。）
- ・食料を海外からの輸入に大きく依存しています。（食料自給率は、37%）
- ・食品ロスの内訳は、次のようになります。

事業系：328万トン（54%）〔規格外品、返品、売れ残り、食べ残し〕

家庭系：284万トン（46%）〔食べ残し、手つかずの食品（直接廃棄）、  
皮のむき過ぎなどの過剰除去〕

### ・「まだ食べられるのに捨てた理由」

家庭系の『食品ロス消費者庁調査』H29（徳島県）



## 【資料2】

- ・[法律] 「食品ロス削減推進法」令和元年10月1日施行。

10月は「食品ロス削減月間」、10月30日は、「食品ロス削減の日」と定められた。

- ・[店舗での工夫] 「すぐに食べるものは、手前からとってね！」

スーパー等で消費者に棚の手前から食品をとってもらう「てまえどり」啓発を実施しましょう。

- ・[家庭での工夫] 食べきれぬ量を作る。

家族とのコミュニケーションで、家族の予定、体調や健康を考慮して食べきれぬ量を作りましょう。

- ・[外食・宴会での工夫] 小盛りメニューやハーフサイズ等を活用する。

食べられる量を相談できるお店を選び、食べきれぬ量の料理を注文しておいしく食べきましょう。また、宴会では料理を楽しむ味わいタイムを設けましょう。

